

| 学期 | 月  | 指導計画<br>(学習内容など)  | 評価計画<br>(観点、規準、方法など)  | 学期  | 月  | 指導計画<br>(学習内容など)                   | 評価計画<br>(観点、規準、方法など)   |
|----|----|---|---|-----|----|------------------------------------|--|
| I  | 4  | 1章 式の計算<br>1 式の計算<br><br>2 文字式の利用                             | 〈知・技〉簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすることができる。<br>〈思・判・表〉具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付けて、整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現することができる。<br>〈主体〉文字を使った式の必要性和意味を考えようとしている。     | II  | 12 | 5章 三角形と四角形<br>1 三角形<br><br>2 平行四辺形 | 〈知・理〉定義やことからの仮定と結論、逆の意味を理解している。<br>正方形、ひし形、長方形が平行四辺形の特別な形であることを理解している。<br>〈思・判・表〉三角形の合同条件などをもとにして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。<br>三角形や平行四辺形の基本的な性質などを活用して具体的な事象を考察し、表現することができる。<br>〈主体〉平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 |
|    | 5  |   |   |     |    |                                    |  |
|    | 6  | 2章 連立方程式<br>1 連立方程式とその解き方<br>(第一回定期考査)<br><br>2 連立方程式の利用      | 〈知・技〉連立2元1次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解している。<br>簡単な連立2元1次方程式を解くことができる。<br>〈思・判・表〉連立2元1次方程式を活用して具体的な場面を考察し表現することができる。<br>〈主体〉連立2元1次方程式の必要性和意味を考えようとしている。            |     |    |                                    |  |
| II | 9  | 3章 1次関数<br>1 1次関数<br>2 1次関数と方程式<br>(第二回定期考査)<br><br>3 1次関数の利用 | 〈知・技〉1次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。<br>〈思・判・表〉1次関数を用いて具体的な事象をとらえ考察し表現することができる。<br>〈主体〉1次関数を活用した問題解決の過程を振り返り検討しようとしている。                             | III | 1  | 6章 確率<br>1 確率                      | 〈知・理〉簡単な場合について確率を求めることができる。<br>〈思・判・表〉同様に確からしいことに注目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考察し表現することができる。<br>〈主体〉不確定な事象のおこりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしている。  |
|    | 10 | 4章 平行と合同<br>1 説明のしくみ<br><br>2 平行線と角                           | 〈知・技〉平行線や角の性質を理解している。平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解している。<br>〈思・判・表〉基本的な平面図形の性質を見だし平行線や角の性質をもとにしてそれらを確かめ、説明することができる。<br>〈主体〉平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 |     | 2  | 7章 データの比較<br><br>(第四回定期考査)         | 〈知・理〉四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解している。<br>〈思・判・表〉四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。<br>〈主体〉四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。  |
|    | 11 | 3 合同な図形<br>(第三回定期考査)  |   |     | 3  | 問題演習                               |  |